

工業団地造成工事におけるコアジサシ(絶滅危惧種)の繁殖活動保護について

戸田建設㈱ 正会員 ○山田 公基
戸田建設㈱ 横井 亮

1. はじめに

本稿は、みよし市福田町地内の造成工事中敷地内におけるコアジサシ営巣保護活動について取りまとめたものである。

※コアジサシは、絶滅危惧Ⅱ類(環境省レッドリスト)、絶滅危惧ⅠB類(繁殖)(愛知県)に指定されており、営巣活動確認時点で鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(第八条 鳥獣及び鳥類の卵は、捕獲等又は採取等(採取又は損傷をいう。以下同じ。)をしてはならない。)が適用される国際希少野生動植物種に該当する。



写真1 コアジサシ営巣状況

2. コアジサシの現地調査

令和3年5月31日、匿名で「造成現場で絶滅危惧Ⅱ類のコアジサシが繁殖活動を確認したので保護対策を要請する」とのメール投稿があり、早急に敷地全域の確認を実施したところ、コアジサシの巣を7箇所、卵を計15個発見した(写真1)。

鳥獣保護の観点から、応急的な対応として産卵箇所周囲の立入禁止明示措置(カラーコーン)並びに工事一時中断による現場保全を図り、今後の対応策を検討することとした。

3. 施工上の課題

当時、次工事への引渡し時期が迫り全く工程にゆとりがない状況であったが、コアジサシの営巣活動の保護と大幅な工程遅延の回避という、相反した課題に対して早急の調整・対応が求められた。

- ① 工事関係者にはコアジサシのような希少野生動物に対する専門的な知識を有する者もなく、適切な対策を実施するためには鳥類専門家の助言が不可欠であった。また、僅か数日という短期間で親鳥数、巣数、営巣エリアのいずれも急増したため、一刻も早く専門家指導による適切かつ効果的な対策を施さなければならない状態に迫られた。
- ② コアジサシがコロニーを形成し産卵したエリアは、平坦な宅盤造成部で粘性土を含む土質から構成されていることから、水はけが悪く産卵エリア全体が水没して卵が死滅してしまうことが懸念された。
- ③ コアジサシの卵やヒナは、天敵に捕食されて死滅してしまうリスクが高い。当現場は、河川や池に面した田園地域という立地のため、カラス、蛇、イタチなど天敵となる小動物も多く保護対策が必要であった。
- ④ コアジサシに好適なコロニーの形成促進には2~4 ha程度の砂礫地の創出・維持が望ましく、初期に確保した営巣面積は約0.8haと小さかったことから、営巣活動に支障をきたす懸念があった。このため、他工事に過度な影響を与えない範囲で可能な限り大きな営巣地を確保する必要があった。

4. 対策

- ① 鳥獣保護管理員に、助言者として現地立会を依頼し、鳥の習性や対応例について指導を仰いだ。

キーワード コアジサシ、絶滅危惧種、レッドリスト、国際希少野生動植物種、コロニー

連絡先 〒461-0001 愛知県名古屋市中東区泉1-22-22 戸田建設㈱名古屋支店 TEL052-951-8543

- ② 梅雨によるコロニー全体の水没を避けるため、水中ポンプを使用した強制排水を施すとともに、外周植樹帯盛土部に素掘り側溝を設け、営巣地に滞留した雨水をコロニー外へ導水した（写真2）。また、素掘り側溝造成時は、騒音・振動で親鳥等に過度な刺激を与えないよう、超低騒音型掘削機を用いて騒音・振動を抑制して慎重に対応した。
- ③ 天敵小動物の侵入防止対策として、コロニー全周にトリカルネット（高さ60cm）を設置した。このトリカルネットは外敵の侵入を防ぐだけでなく、行動的なヒナがコロニー外へ逃避することを防止し、工事車両や重機との接触防止対策としても高い効果を発揮した（写真3）。



写真2 素掘り側溝による雨水排水状況

- ④ 営巣地の拡張を目的に、工事全体の工程の調整と施工手順の工夫により、最終的に約2.0haまで拡張させた。これにより巣数は7箇所から20箇所以上と急激に増加し、順調な営巣活動支援を実現できた（写真4）。



写真3 トリカルネット設置（外周）

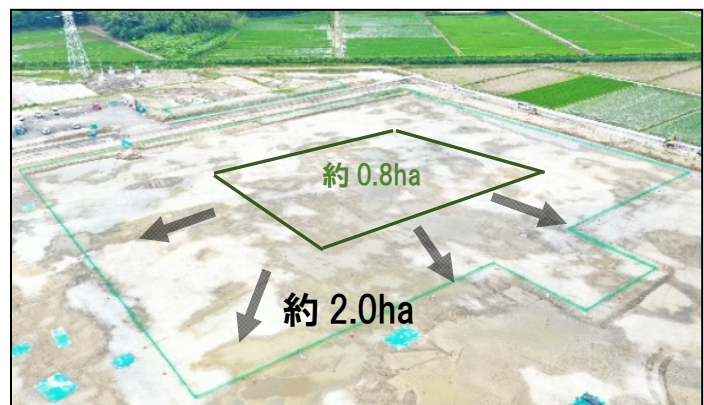


写真4 産卵エリアの拡張

5. 保護活動の成果

コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針¹⁾では、コアジサシの飛去は9月下旬～10月上旬と記載されている。当工事では、日本野鳥の会愛知県支部の現地立会（8月）にて正式に飛去完了が確認されたことで、コアジサシ営巣活動が順調に終了し、想定より早い時期に産卵エリア内の工事再開が認められた。

最終的にコアジサシ親鳥の飛来数は40羽以上、確認産卵数は50個、巣立ったヒナは7羽以上と諸活動により一定の成果を得ることができた。環境省の調査結果（昭和63年度から平成23年度）では、コアジサシは日本において繁殖はするものの巣立率（繁殖成功率）は10%未満と著しく低いが、今回の巣立率は推定14%以上と高値を示し、コアジサシの繁殖保護活動は適切に実施できたと判断する。また、工事一時中止指示の中、施工協議・工程照査等を重ね、工程遅延損失を最小限に抑えることができた。加えて、遠隔操作対応の監視カメラを複数台設置し、コアジサシの生態に関する貴重映像を記録・提供することもできた。

6. おわりに

本活動を遂行するにあたり、ご協力頂いた関係者皆様に深く感謝する。今後はESG・SDGs経営を推進する企業として、環境に配慮した積極的な活動を実施していきたいと考える。

参考文献

¹⁾コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針 平成26年3月 環境省自然環境局野生生物課